

平成 29 年度第 1 回門真市社会教育委員会議 議事録

会議名称	平成 29 年度第 1 回門真市社会教育委員会議
開催日時	平成 29 年 8 月 31 日（木）午後 3 時から午後 4 時 45 分まで
開催場所	門真市役所本館 2 階 大会議室
出席者	（委員） 萩原議長・舩越副議長・中島委員・仲谷委員・木下委員 白土委員・古川委員 【出席人数 7 人／全 8 人中】 （事務局） 満永教育部長、水野教育部次長、牧菌社会教育課長、西中図書館長、 清水課長補佐、中谷課長補佐、宇治原副参事、岡係員
議 題 （内 容）	① 提言（子どもの学習機会の充実に向けて）進捗状況について ② 諸報告
傍聴者数	0 人
担当部署	（担当課名） 教育部 社会教育課 （電 話） 06-6902-7139（直通）

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、会議を開催したいと存じます。

まず、委員の交替がありましたのでお知らせいたします。

元門真市立脇田小学校校長であった的場委員の後任として、現脇田小学校校長の鈴木貴雄委員が新たに委員となりました。よろしくお願ひいたします。

なお、鈴木委員につきましては本日ご欠席の連絡をいただいております。

次に、開会に先立ちまして、はじめに資料の確認をさせていただきます。【資料確認】

不足がある場合はお知らせください。

次に資料 1 の機構図についてご説明させていただきます。資料 1 をご覧ください。

平成 29 年 4 月 1 日付けの機構改革に伴ない教育委員会事務局の体制が変わりました。昨年度の第 2 回会議でもすでにお伝えしているかとは存じますが、改めてご報告させていただきます。

機構改革により、社会教育行政を所管しておりました生涯学習部が、学校教育を所管している学校教育部と統合され、教育部となりました。また生涯学習課から文化振興と国際交流の事務が市長部局に移管され、スポーツ振興課と統合し、社会教育課となりました。

本日開催の社会教育委員会議や社会教育施設の管理運営など社会教育に関することは社会教育課に引き継がれております。

それでは、以降の進行を議長にお願いいたします。

【萩原議長】

平成 29 年度第 1 回門真市社会教育委員会議を開催いたします。

それでは、次第に沿って審議を進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。  
まず、案件1提言の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

それでは、案件1についてご説明いたします。

平成28年7月に門真市社会教育委員会議より、子どもの学習機会の充実を一層求めるとともに、その方向性について提言をいただきました。

前回の会議では、この提言が上手く進められているかどうか見ていくということになっていかと存じますので、案件1のとおり進捗状況についてご報告させていただきます。なお、本日が第1回目の会議となっておりますので、まずは現状報告が中心にはなりますが、今後は本会議の中で議論を深めて参りたいと思いますので何卒よろしくお願いいたします。

進捗状況を報告するうえで、提言の内容を大きく5つに分けさせていただきました。一つ目に子どもの学習機会の把握。二つ目に子どもの学習機会の周知。三つ目に地域の人や大学などとの連携。四つ目に困難を抱える子どもへの支援。最後に効率的・効果的な社会教育行政の推進の5つでございます。

その5つの内容について、事業ごとに進捗状況をご報告させていただきます。

委員のみなさまには項目ごとに、改善点や工夫すべき点などご意見をいただきたく存じますので、よろしくお願いいたします。

それでは資料3「事業一覧」をご覧ください。

まず、一つ目の「子どもの学習機会の把握」についてです。教育委員会、庁内他課、各社会教育施設、他団体で実施している事業のうち、子どもを対象としたものをピックアップして調査いたしました。社会教育課や図書館以外でも、世代間交流活動や子育てサロンなど子どもを対象とした様々な事業・取り組みを実施されておりました。今後においては、学習機会の把握の調査はもちろんのこと、それら把握のみにとどまらず、行政、地域、学校が一体となり、総合的に子どもを支えていけるような仕組みづくりに向け、社会教育課からも関係部署へ情報提供していくよう努めて参ります。子どもの学習機会の把握については以上でございます。

#### 【萩原議長】

ありがとうございました。提言の内容を項目ごとに分けて順番にご報告いただくとのことでした。

一つ目が子どもの学習機会の把握ということで、これは提言の5ページ目にも「子どもの学習機会の把握と周知に努めること」と記載があるものになります。この部分について、資料3の事業一覧でもご報告をいただいたのですが、ご質問、ご意見等はございますか。

資料3にたくさんの事業がございますので、何かこの中で気になった点でも結構ですし、固有名詞が入っていて分かりにくいところがあると思いますので、その点でも結構です。

#### 【木下委員】

木下です。図書館協議会にも関わらせていただいておりますので、その関係で情報をみなさまに

共有させていただきます。

読み聞かせ事業ということで、本当に図書館が中心になりまして、あるいは図書館を拠点に活動なさっておられる市民グループ、読み聞かせをしておられる方々が、学校に出向いて非常に有意義に事業を進めてくださっていると認識しておりますが、図書館協議会では、次なる担い手の方々がなかなか見つからない、育成できないというようなことがいつも意見として出ておりました、それはすごく残念なことです、社会教育委員のみなさまは、それぞれ図書館という範疇だけではなくて活動なさっておられますし、いろいろネットワークをお持ちかと思えます。門真市の図書館は、少ない人数のスタッフさんですごくいろいろなことをされていて素晴らしいと思っておりますので、この読み聞かせ事業につきましても、図書館を盛り立てていただける担い手の方々へのお声かけを、みなさまの立場からもしていただけると大変ありがたいです。以上です。

**【萩原議長】**

図書館の方で、何か担い手と言いますか、読み聞かせ講座のようなことをされていますが、そのあたりの情報をいただければと思います。

**【事務局】**

年に何回か読み聞かせ講座ということで、講習、講演会をさせていただいております。あとは、目の不自由な方や本を読むのが困難になった高齢者の方々に対して資料を読む、朗読ボランティア養成講座というものを開催しております、それに関しては、たくさんの人に受講していただいておりますし、毎年開催していますので、年々スキルアップしていただいております。

**【萩原議長】**

木下委員よろしいですか。

**【木下委員】**

はい。

**【萩原議長】**

読み聞かせは、いつも募集されても参加は結構来られるのですか。

**【木下委員】**

参加はたくさんあると報告を受けておりますが、終了した方がなかなか。

**【萩原議長】**

次のステップへ行かない。

【木下委員】

そうなんです。

【事務局】

ボランティアとして読み聞かせをされるといった新しい方がなかなか増えて来なくて、昨年度も広報で周知させていただいたところ、何人かやってみたいですよということで来られますが、仕事が見つかったのでやっぱりごめんなさいというような事ですとか、今やっておられる方は高齢者の方なのですが、すごく熱心なんです。練習が朝からお昼過ぎまでと長時間やられたりするので、そこについていくのが厳しいという方もいらっしゃいますので、今現在やられているボランティアさんには、参加しやすい形で考えていただけないでしょうかというようなことも投げかけてはおります。

【木下委員】

ぜひ男性の方も読み聞かせ、今、読みメンという取り組みが進んでおりますので、男性が読み聞かせをなさることも子どもさんすごく喜ぶますので、地域のリタイアなさってすごく活動的な男性がおられると思うので、そのような参加していただける市民の方が増えることを願っております。

【萩原議長】

社会教育委員会議の他、啓発ができるかどうかですね。今呼びかけられているのは広報か何かですか？

【事務局】

広報やホームページです。昨年度は市民大学にも卒業生が勉強会をされていると聞きましたので、そちらにも呼びかけということで行かせていただきました。

【萩原議長】

もう少し工夫できる余地があれば、またご提案いただいてもありがたいなと思います。  
他は特にありませんか。

【古川委員】

はい。

【萩原議長】

どうぞ。古川委員。

【古川委員】

資料3の一番上なんですけれども、かどま土曜自学自習室サタスタ、まなび舎 Kids について、子

どもにダイレクトに勉強で働きかけているのはこれだけかなと思うんですが、ここまでで結構ですので、具体的な年齢とか数字、あるいは見えている成果のような部分があれば教えていただきたいと思います。

#### 【事務局】

サタスタ、まなび舎 Kids について、平成 28 年度の実績でご報告させていただきます。まず参加人数についてですが、サタスタが門真市内全小中学校 20 校で実施しておりまして、延べ参加人数が約 5,800 人、まなび舎 Kids が小学校 9 校で実施しているんですけれども、延べ約 6700 人の参加があります。

登録でいえば、サタスタが小学校で 265 人、中学校で 75 人、まなび舎 Kids では登録が 245 人となっております。

年間の実施回数なんですけれども、サタスタが長期休業日、夏休みや冬休み、春休みを除く土曜日に実施しておりまして、年間約 560 回程度でございます。まなび舎 Kids の方が全校足しまして 230 回程度となっております。

1 回あたりの平均参加人数としては、サタスタでは 10 人程度、まなび舎 Kids では 30 人程度となっております。

また、この事業に関わっていただいているボランティアの人数なんですけれども、地域の方、大学生等すべて含めまして 200 人程度の方にご協力をいただいております。

成果といたしましては、アンケートを年度終わりにとっておりまして、家庭での学習時間が増えましたかといった内容なんですけれども、家庭での学習時間が増加した児童の割合が増えているといった状況となっております。あとは、子どもたちの学習を地域の方や大学生が教えていく中で、教え方であるとか課題などを、みなさんで考えながら取り組んでいच्छゃると思いますので、子どもだけではなくて、地域の方や大学生にとっても学びになるような取り組みであると思います。

#### 【古川委員】

ボランティア、地域の支える人が 200 人ということなんですけれども、実質 200 人全員が稼働できるのですか。

#### 【事務局】

1 回で 200 人来られるということではなくて、学校によってばらつきはありますが、1 学校あたり 3 人程度は来られています。なので、1 日で全校合せて 70 人くらいの方にご協力いただいております。

#### 【古川委員】

これは各学校でやられているんですか。それともひとつにまとめてですか。

**【事務局】**

サタスタの実施場所についてですが、各学校の図書室もしくは理科室となっております。宿題が終わった児童は図書室の本を読めるような体制をとっております。

**【古川委員】**

サタスタの参加が1日あたり平均10人となっておりますけれども、これは門真市全体で10人ということではなくて、各学校で10人ということですか。

**【事務局】**

そうです。登録でいえばもっといますが、実際に参加するとなると平均して10人前後となっております。

**【古川委員】**

ボランティアや地域の稼働できる200人の方というのは、ある一定の共通の理解であるとか、話し合いの場というものはあるのでしょうか。

**【事務局】**

意見交換会というものを昨年度実施しました。各校どのような運営状況かということをお話いただいております。共通の認識という面では、各校でそれぞれ話しをされているかもしれませんが、全体で話す場としては、現状、意見交換会のみとなっております。

**【古川委員】**

そこは目的と言いますか、何のためにやるというベースの所は揃えない方がいいと思われませんか。

**【事務局】**

ボランティアに関わっている方それぞれ思いというものがあると思いますので、事業に対しての一定のルールは認識していただく必要はありますが、取り組みの姿勢については、個々によって違うと思いますので、そこは尊重したいと考えております。

**【古川委員】**

その話し合いの中で生まれてくるものと、門真市の強いリーダーシップとのバランスのようなものはどうなんでしょうか。せつかくいいものがあるものでちょっとでも充実させたいと思ひまして。

もう一つは、サタスタでアンケートをとっていると思うんですけども、それ以外の成果の把握は予定にはないのでしょうか。家庭での学習時間が増えたというのは分かるのですが、個々の教科の成績が上がったとか、メンタル面でこういった成果があったみたいな、その手のエビデンスを積み重ねていく予定はないのでしょうか。

**【事務局】**

メインとして考えているのは、子どもの居場所づくりになりますので、もちろん学習プログラムもその一部には含まれますが、子どもたちが活動場所で充実して過ごせているかということは、検証していかなければならないと感じております。

**【古川委員】**

具体的に成績の面に関しては、もう触らないということですか。

**【事務局】**

メインのプログラムが自学自習となっているので、教科ごとに特訓するであるとか、強化するような形ではなくて、活動時間中に子どもたちは主に宿題などをして過ごしているのです、教科別に成果を測るようなことはいまのところ予定しておりません。

**【古川委員】**

それはなぜですか。

**【事務局】**

学力の向上に重きを置いているのではなくて、子どもの居場所であるとか、学習習慣の定着、結果的にそれが学力の向上に繋がるということはあるかもしれませんが、まずは学習習慣の定着と学習へのきっかけづくりということを目的に実施しておりますので、現状では、そのような教科別に成果を測る予定はないということです。

**【古川委員】**

例えば、ここに出ていて具体的に成績が上がっていたりしたら、子どもたちにそれを返した時に嫌な気はしないと思います。逆に成績が良くなかった子に関しては、そうではないのかもしれないですけども。

もう一つは、ずっと聞いていると大体この人数で推移しているのではないかと思いますけれども、増やすことが目的ではありませんが、もう少しシステムチックに考えるような、例えば、学校の先生と連携して、このやり方と何かをリンクさせて 200 人も動けるのであれば、もう少し充実させるようなことも考えてもいいのかなと思います。もちろんやっておられることは高く評価しますけれども。この制度は結構長く続いているので、何か力を持っているのだと思います。細く、長く続くものは何か力があるので、もう少し踏み込んだことができれば良いかなと思います。以上です。

**【萩原議長】**

ありがとうございました。他、いかがでしょうか。最後項目ごとに行ったあとに戻ってきて、この部分について聞いていただいてもご意見いただいても結構ですので、一旦「子どもの学習機会

の把握」については以上とさせていただいて、次に「子どもの学習機会の周知」について、提言の5ページ目です。事務局よりお願いいたします。

#### 【事務局】

それでは、二つ目の「子どもの学習機会の周知」について事務局よりご報告いたします。

資料4「進捗状況」の①をご覧ください。

社会教育課としては、主に市ホームページ、広報、すくすくかどまっこナビへの掲載、各自治会へのチラシ等の回覧、社会教育施設へのチラシ配布、ポスター掲示などで周知を図っております。中でも「青少年の主張」「めざせ世界へはばたけ事業」については、市内の小中学校のみならず、門真市在住の児童・生徒が在籍する私学小・中学校へも直接赴きチラシ・ポスターの掲示を依頼するとともに、FMハナコやJ:COMなどのメディアを通した周知も行っております。

主な事業のイメージを共有していただくために、写真を2ページ目に添付しておりますので参考にしてください。

次に図書館よりご報告いたします。

図書館では、お手元の資料に記載しております図書館運営事業、読み聞かせ事業、子どもの読書活動推進啓発事業では、広報かどま、ホームページ、地域情報誌「まみたん」に行事の掲載、各施設にお知らせの配布など、周知に努めております。

利用者に対しては、新着案内の配布、市職員に対しては、図書館通信を庁内掲示板に掲載しております。

また、司書おすすめの本の紹介や行事のお知らせなどを載せた「図書館だより」を作成し、市内小学校に掲示を依頼しております。

学校等読書活動支援事業では、校長会・教頭会で学級文庫配本事業や図書館見学などの周知を行っております。以上でございます。

#### 【萩原議長】

ありがとうございました。資料4の「子どもの学習機会の周知」をどのようにしているかということについてご報告をいただきました。併せて、先ほども質問が出ておりましたサタスタとまなび舎 Kids については、資料4の2枚目に写真が載っております。大体10人くらい集まっているのかなということが分かります。

事業の把握と周知ということで、分けてご説明いただいているのですがけれども、事業としては一体なので、先ほどの事業の部分についてさらにご質問いただいても結構なので、ご意見、ご質問があればよろしく申し上げます。

#### 【木下委員】

質問があるんですけども。

**【萩原議長】**

はい。どうぞ。

**【木下委員】**

先ほどの古川委員のご意見にも関連があるんですけれども、確認させてください。古川委員からサタスタの成果ということで、学習能力、成績というようなご提案がございましたけど、これは先ほどの資料3に戻っていますけれども、社会教育課ではなく学校教育課のKadoma 塾事業、こちらはまさに居場所づくりではなく、学習支援に特化したということで、こちらと、社会教育課の方で棲み分けをしておられるという認識でよろしいでしょうか。

**【事務局】**

木下委員からのご質問についてお答えいたします。Kadoma 塾というのは学習に特化したもので、社会教育課で実施しておりますサタスタやまなび舎 Kids については、先ほど申し上げたとおり、学びのきっかけづくりと居場所づくりを目的に実施しておりますので、棲み分けをしております。

**【事務局】**

補足させていただきます。門真の子どもたちはなかなか家庭での学習習慣が定着していないということがあります。したがって社会教育課では先ほど申しましたサタスタやまなび舎 Kids、学校教育課では保護者に対して「まなびのすすめ」であるとか、中学校では「家庭学習ノート」などを配布するとともに、地域の人の力を借りて、学びをいろんな人に手助けしてもらいながら、学校以外のところでしっかり学ぶというような、いわゆる学びの底上げを行い、学びの場をつくり、そこで学ぶことでみんなから応援されることのすばらしさなどを味わってもらいながら学習習慣を定着することをしております。

一方で、もっと伸びる子やもう少し頑張れば自分の行きたい高校に行けるというような子どもについては、Kadoma 塾で全国学生塾協会という所と提携して、毎週火曜日、金曜日夜7時から9時まで、現在25名程度の子どもたちが学んでおるわけがございますけれども、学習塾の先生に実際に英語や数学を教えていただいているというところで、それが今年で3期生ということになって参ります。ほぼ望みの高校に入ることができている、あるいは最初の志望校より難関な高校に入って喜んでいる子どももいますし、私立入試が終わっても自習として、学習塾の先生に教わりに来ている子どももいますので、向学心を持った子どもの学習を補助する取り組みになっております。

一方では裾の尾を広げる、一方では頑張っている子どもをもっと応援しようというような棲み分けでございます。以上でございます。

**【木下委員】**

ありがとうございました。

**【萩原議長】**

戻っていただいても結構ですので、先ほどのものと併せて見ていただきたいと思います。

先ほど古川委員からもご質問があったと思いますが、サタスタは特に教材などはなくて、子どもが持ち込んでくるような形になるのでしょうか。

**【事務局】**

各小学校にパソコンを1台ずつ導入しておりまして、そこに教材をインストールして、教材のひとつとして活用しております。

**【萩原議長】**

学力的なサポートもある程度入ってくるということでしょうか。

**【事務局】**

はい。

**【萩原議長】**

ボランティアの方に向けて、教え方の講習会等は特に実施されていないということですね。

**【事務局】**

はい。実施しておりません。

**【萩原議長】**

ということで、少し共通の認識はあるようです。

**【古川委員】**

かどま土曜自学自習室サタスタ、まなび舎 Kids の存在を、学校の先生方はどのように思っておられるのか、校長先生も来られているのでお聞きしたい。学校の先生が一番子どもたちの様子を見ておられると思うので、この子こそ、ここに行けばというようなシステムができれば良いかなと思うんですけども、先生方もお忙しいのでなかなかそこまで難しいかもしれないですが、どのように見ているのかご意見いただければと思います。

**【仲谷委員】**

はい。まなび舎 Youth については、本校も学生ボランティアをお願いをしているんですけども、子どもが知っていても保護者が知らないというパターンがよくありまして、プリントは毎年配っているんですけども。昨年だと学生の子がすごくいい子で、来たときに教室を周るんです。「今日あるよ。」と声かけをしながら。本校ではまなび舎 Youth のときは最初1名しか応募がなかったんです。

その子に寂しいからお友達を誘うように話をしに行ったら、そこで聞いていた子どもたちが、興味を持っていたので、火曜日に勉強するから一度来てみたらという話をしたら、そこから増えていきました。学生ボランティアの方も、廊下で子どもたちに声かけを行ってくれたので、だんだん増えていったんです。やはり、子どもにプリントを渡しても親は知らなかったり、子どもがそのことをよく分かっていなかったりということがあったので、反省はしております。

サタスタはボランティアの学生の方をお願いをしたいんですけども、門真市には大学もありませんし、私にはそのような伝手もないので。大学生が二中で活動すると言ってくれればとすごくありがたいんですけども、今は地域の方をお願いをしてやっていただいております。中学生の場合、どうしてもクラブがありますので、土曜日となるとクラブをやるといったことが、試合なども土日ですし、平日ではなく土日がメインになってきますので、なかなか土曜日の朝というのは来づらいです。それでも去年は、3年生はクラブが1学期で終わりなので、3年生が何人か静かに勉強をしておりました。すごく充実していると本人たちは言っていました。お家の事情で、家にいると兄弟が遊んでいるので、私は勉強がしたいので学校へ来ましたという子もいましたし、落ち着いて自分のペースで勉強ができると言って来ている子もいました。地域の方が指導されているので、基本的には自分で課題を持ってきてそれをやっていたし、図書室なので、気分転換にと言って本を読んでいることもありました。それはそれで、人数は少ないんですけども、すごく意義のあることだと思っています。

教員はなかなか忙しくて、存在は知っていて、子どもが申し込む時には声かけはしているとは思いますが、その部屋に実際に行って様子を見るといったことはあまりないです。学生さんが試験で来ることができない時は、私や教頭先生が図書室に行って、その時間を子どもたちだけにするわけにはいかないもので、一緒に過ごすということはしていました。教員は忙しくて、教員をお願いするのが私自身、言いにくくて、それなら私が行って子どもと接しておこうと思って、行っていました。

門真市さんは、教員の負担を考えて実施してくださっているのはすごく助かっています。教員が出てきなさいとか、教員がやるといった風潮があるんですけども、門真市さんは、地域のことで門真市がやっているのということをおっしゃるので、私はすごく助かっています。

#### 【萩原議長】

他はいかがでしょうか。

#### 【古川委員】

学校の先生はお忙しいとは思いますが、逆にこういったシステムが学校の先生の補助もできるようになれば、両輪で回っていかないかなと思います。これ以上現場の先生の仕事を増やすのはきついものがあるんですけども。

200人のマンパワーがあって、稼働率がそれほど多くないのであれば、このマンパワーを子どもたちに直接支援することも大事だと思うんですけども、学校の先生が元気になれば、必然的に子ども

もたちも元気になると思うので、このあたりのシンクロみたいなものがあればと思います。

#### 【仲谷委員】

前は私、枚方にいたんですけれども、大学生が授業中にもサポートに入ってくれるんです。それはボランティアで、もちろんボランティア保険も枚方市さんで入ってくれているんですけれども。地域にも卒業生にも大学生はいましたので、もちろん教育実習に来る学生にもそういったボランティアをお願いして、その子たちは授業に入って算数なら算数で、常にサブティーチャーのような形でサポートをしていました。本校でもそのようにしたいのですが、ボランティアなのでなかなか人材が、学生さんも時間があればアルバイトをしますし、教育に進みたい、教職を取りたいという学生さんもいらっしゃると思うんですけれど、なかなか本校とは巡り合えていなくて。

#### 【古川委員】

何かそれを周知するようなことができれば、学生さんは発達に問題がある子に興味を持っていたりであるとか、それぞれ向いているところが個性的でいいなと思っていて、今ありました、枚方市のような取り組みができれば素晴らしいなと思います。

この 200 人だけでもいいんですけれども、先ほど私が言いましたベースのところ、理想や哲学のところになってくると思うんですけど 200 人の学生さんがやりたいこととか、こんなことをしてみたいとかあると思います。それに先ほど先生がおっしゃったようなことが入ってきたり、あるいは今の皆さんでこのようにもっていきたいであるとか、理念、理想みたいものをお聞きしたいなと思います。

特に学生さんたちが本当にキラキラしたものをたくさん持っていると思うんですけれども、この子たちが独自でどう動いたらいいか、まず発信できないと思います。そのあたりはリーダーシップをとってもらいながら、仲谷委員がおっしゃった大学生が授業に入れるような発展性も含めて、理想のようなものがあれば聞かせていただきたいなと思います。

#### 【事務局】

ボランティアの方面で言えば、サタスタやまなび舎に参加している学生の方の中には、単に子どもたちと関わってみたいであるとか、ボランティアをしてみたいという方がいらっしゃると思います。

また、サタスタやまなび舎 Kids が他の活動に繋がるきっかけにもなるかもしれません。そういったことが吸い上げられればいいとは思いますが、まずはサタスタやまなび舎 Kids の活動の中で、学生が自ら考えてプログラム等を企画し、実施できるような、そういった場をつくっていただければと思います。

#### 【古川委員】

学生の考えで何か企画するという事は素敵かなと思いましたけれどもね。

### 【仲谷委員】

本校はサタスタについては学生さんじゃないんです。地域の PTA の OB の方であるとか、小学校で言えば地域の朝の立ち番をされているような方です。お勉強まで教えていただくというのはとても難しいと思うので、子どもの勉強している様子を見ていただくという形なんです。

まなび舎 Youth も人材がないんです。摂南大学の先生に、学生さんを 1 人でもいいので紹介してくださいとお願いして探しているんです。本当は地域にいる学生さんが、できれば本校の卒業生が来てくれたらそれはすごくありがたいことなんですけれども、私の人脈ではどこにどういった人が動いているのか分からないのでそこが少し難しいと思います。学生さんは子どもたちと近いので、子どもたちが分からないことを聞きやすいということもあるので、去年のまなび舎 Youth のどんどん人が増えていったというのは、学生さんに会えるであるとか、教えてもらえるということがあったのだと思いますので、そういった伝手があればと思っています。

### 【木下委員】

少しよろしいでしょうか。サタスタ、まなび舎 Kids というのは地域の緩やかな場づくりということで、仲谷委員に古川委員がおっしゃったのは、教員の負担軽減ということで事業サポートというお話しとごっちゃになっているように思いました。

本学は特別支援学科がありまして、特別支援学科の学生は発達障がいや学習障がいについて、学びと言いますか、基礎知識を持っておりますので、もちろん仲介は特別支援学科の教員が入ってですが、大阪市の小学校等に授業サポートに入らせていただいている学生がかなりおりまして、今ちょうど大阪府の方では 3 次試験が始まっているところなんですけれども、特別支援学科の教員になることが将来の夢ということで入学していますので、そういった意味で言いますと、サタスタやまなび舎 Kids のように少し上のお兄さんやお姉さんが担ってゆるやかな場づくりというのと、発達障がい、学習障がいの生徒さんと接するには、それなりの基礎知識がいると思いますので、私は教育の専門家ではありませんけれども棲み分ける必要があると思います。

単なる知的障がいではなくて、いろいろな症状がありますので、学生といえども、基礎知識をある程度持った者が授業サポートに入らせていただく必要があると思いますので、門真市さんもそのあたりのことを認識しておられて、だれでもおいでということにはなっていないのかなと思います。

### 【萩原議長】

ありがとうございます。

まず、門真市の方では学校支援ボランティアはやられているんですか。

### 【事務局】

学校支援地域本部の取り組みのひとつとして実施しております。

## 【萩原議長】

では先に、地域連携の話を説明していただけますでしょうか。

三つ目の「地域の人や大学との連携」についてお願いいたします。

## 【事務局】

それでは三つ目の「地域の人や大学などとの連携」について事務局よりご報告いたします。

資料4の②をご覧ください。

社会教育課として、まず、かどま土曜自学自習室サタスタ事業、まなび舎 Kids 事業についてですが、参加児童に学習支援をする学習アドバイザーとして、大学生や短大生、教員OBにご協力いただいております。また地域の方には、参加児童の安全面への配慮や活動場所の管理を行う管理員としてたくさんの方にご協力いただいております。さらに昨年度からは子どもが学習に興味を持つきっかけづくりとして、セブンイレブンやライオン、松下記念病院などの企業や大阪樟蔭女子大学、近畿大学などの大学と連携し体験学習プログラムを実施いたしました。その際は放課後児童クラブの児童も一緒に参加できるよう、放課後児童クラブ所管課と連携し、関係各位への周知等を実施しました。

次に青少年の主張事業では市内の高校、中学校と連携し、昨年度は発表会当日の司会を門真西高等学校の生徒が担い、審査時間中には第五中学校吹奏楽部による演奏を行っております。

めざせ世界へはばたけ事業では、関西外国語大学と連携し、英語プレゼンテーションコンテスト当日の司会や舞台スタッフ、事前研修の補助等に学生が参加しています。また、青少年の主張と同様にコンテスト当日の審査時間中には門真市子ども英会話講座「KEIK」の受講生による歌や踊りなどのパフォーマンスがあり、子どもたちの貴重な発表の場となっております。

スポーツレクリエーション大会では、地域のスポーツ団体代表、学識経験者、大阪国際大学等に実行委員として参画していただき、事業の運営にあっております。

さらに、市立総合体育館運営管理事業では、総合体育館指定管理者及び総合型地域スポーツクラブが連携し、生涯スポーツを推進するための自主事業を実施しております。

最後に、学校施設開放事業では、小学校、PTA、子ども会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員及び自治会等の代表者が校庭開放委員として参画していただき、学校施設開放の企画運営を実施しております。

図書館としましては、図書館運営事業において、地域の子ども会の依頼により、常盤町みらい図書館の整備の支援を行いました。

読み聞かせ事業では学校教育課、地域政策課、人権女性政策課など他課と連携し、学校、地域会議、WESS（女性サポートステーション）において、ボランティアによるおはなし会等を実施しております。

学校等読書活動支援事業では、学校教育課と連携し、学校図書館司書連絡会・研修会を実施しております。また、学校図書館の整備やビブリオバトルのデモンストレーションの開催など学校に対する支援を行っております。

子どもの読書活動推進啓発事業では、学習機会につなげるための読書手帳を配布し、絵本作家の講演会や大阪府教育庁との共催事業、面展台製作教室や読みメン講座も実施しました。

ボランティアと連携し、えほんのひろばも開催しております。

このように、他部署、地域、大学、学校等との連携により様々な事業を実施しております。今後におきましてはそれぞれと一層連携を深め、多様で幅広い学習、居場所づくりにつながるよう努めて参ります。以上でございます。

**【萩原議長】**

ありがとうございました。連携のチャンネルがたくさんあるんですけども、今日のお話のメインとなっているサスタ、まなび舎Kidsについても先ほど説明されたように出てきておりますし、学校支援地域本部事業で学校支援ボランティア活動をやっておられるということです。

学校支援地域本部は全中学校区ですか。

**【事務局】**

はい。全中学校区です。

**【萩原議長】**

全中学校に置かれているということですね。どのくらい実際に支援が入っているんですか。そのあたり数字が分かるようでしたら、教えていただければと思います。

**【事務局】**

具体的な数値については無いのですが、活動内容としては花壇の整備、図書室開放、図書の整理などがあります。

**【萩原議長】**

学校の環境整備ということですね。

**【事務局】**

はい。環境整備が主になっております。

**【萩原議長】**

サスタ、まなび舎 Kids については、先ほどから何回もご説明されているとおりで、実際に学生の参加数は地域の方に比べて少ないんですか。先ほど全体で 200 人というお話がありましたけれども。

### 【事務局】

学生の参加数としては70人くらいです。

### 【議長】

そういう状況で連携しているということですね。図書館の方も冒頭お話しがありましたけれども、いろいろなところと連携して事業を進めているということで、全ての事業に対して地域等との連携は欠かせないので、これをどう発展させていくのかということが議論の焦点となっておりますけれども、引き続きご意見があれば、あるいはご質問でもいただければと思います。

### 【木下委員】

学校図書館の司書の配置が1人1校ではなくて、併任にはなりますが、全校配置が整ったとのことで図書館協議会でご報告を受けました。もちろん専任での配置が望ましいですが、7月の図書館協議会で、学校司書が配置されたことによって、それまでの魅力のなかった図書館がどのように変わったのかをまさにビフォーアフターの様な形を見せていただいて、大変感動しました。今は併任ということですが、今後はさらに学校司書の配置をすすめていただければ大変ありがたいです。

サタスタ、まなび舎 Kids でも、1人1校の専任配置になりましたら、例えばですけども、サタスタの時に図書室で司書も読書指導のようなことができる可能性があるのではないかと思います。

### 【萩原議長】

大規模校の司書の配置は兼任ですか。

### 【事務局】

お1人で2校掛け持ちです。

今回小学校で、学校図書室があまり整備されていないということで、学校教育の学校司書担当の方と図書館の司書の職員とで学校に入りまして、1週間に1回、3週続けて入らせていただきまして、学校図書室を整備させていただきました。やはり子どもたちが見に来て、きれいになった、すごいなどの声かけをしてくれたようで、整備に行った職員もすごく喜んでおりましたし、先生方にも喜んでいただきました。

また、学校司書との連携ということで、今までも研修会、連絡会を年に数回やっておりましたが、学校司書が全校配置になったということで、今年度は2か月に1回、図書館で実施しております。学校司書さんからは選書の方法や廃棄の仕方が分からないであるとか、初めて来た学校司書さんもいらっしゃいますので、本の修理とか装備が全然分からないから教えていただけたらありがたいということと、はじめての学校司書さんは図書館自体をあまり知らないということで、1日図書館員のような形で窓口に出たり、本の貸出や返却の経験もさせていただきました。

### 【萩原議長】

いかがでしょうか。特にご意見等はよろしいでしょうか。実は提言の方では6ページ目に「地域の人や学校と連携して様々な困難を抱える子どもへの支援に努めること」となっているので、連携は学校のサポートと同時に特に困難を抱える子どもに対して、いろんな力を借りながら進めていくということが提言の主旨でしたので、続けて、困難を抱える子どもへの支援のところを説明していただいて、もう一度議論したいと思います。

それでは、「困難を抱える子どもへの支援」について引き続き事務局よりお願いいたします。

### 【事務局】

それでは四つ目の「困難を抱える子どもへの支援」について事務局よりご報告いたします。

社会教育課では、いずれの事業も参加費は無料もしくは低額で、申込みをすれば誰もが気軽に参加できるような事業の実施に努めております。ただし事業によっては会場やスタッフの人数の関係上、一定の制限を設けなければなりません。困難を抱える子どもを含め、より多くの児童に学習機会を提供できるように、他部署、大学、地域と一層連携を深め、事業に関わるスタッフの増加などについて工夫していく必要があると感じております。以上でございます。

図書館では主なものとしまして、子ども向け大活字本、点字図書、外国語併記図書を提供しています。

また、児童コーナーに、子ども向けの椅子やDVD視聴用機器、館内にはインターネット用パソコン、拡大読書器も設置しています。すべての子どもが、図書館利用できるバリアフリー対策に努めております。以上でございます。

### 【萩原議長】

ありがとうございました。資料4の3つ目の項目まで説明していただきました。いろいろな連携の中で困難を抱える子どもというのはかなり漠然とした表現なんですけれども、子どもの学習障がいのようなものがあれば、経済的な困難を抱えている子どもたちもあるということで、様々な側面からその子どもたちを視野に入れながら事業を実施していくというところで、社会教育課で事業を実施していただいているわけですけども。ただ、今日もお話しが集中しましたようになかなか事業同士の連携といたしますか、隙間がやはりあって、この事業ではこういうところに配慮しているけれども、その事業で配慮したことが次の事業に繋がっていないということがあって、そのあたりが一番課題だと感じている次第です。

### 【古川委員】

70人の学生ボランティアさんがいらっしゃると思うんですけども、この人たちの感想や意見はどういったものが多いですか。また来てみたいであるとか、もうしんどいとかいろいろあると思うんですけど、どれくらい把握していますか。

**【事務局】**

まずは、しんどいといった声はあまり聞いたことがないです。アンケートなどもスタッフ向けにも取らせていただいております、いまその内容については詳細にお伝えできないんですけども、直接話している中では、教員を目指すうえで、先にこういった子どもたちと接することができる場所に来て良かったと思うということは聞いたことがあります。

**【古川委員】**

雰囲気としてはどうですか。学生さんたちと関わってみて、できればアンケートではなくて、直接会話の時間をたくさんとられればいいと思うんですけども。

**【事務局】**

毎週、職員が各学校を周って子どもたちの様子であるとか、活動の状況を見に行っており、その中で学生さんと話す機会がある時は話しをさせていただいております、楽しい、子どもが可愛い、中には子どもにどのように教えたらいいか分からないというような声も聞いております。

**【古川委員】**

先ほど仲谷委員がおっしゃっていた卒業生のネットワークができたということは、すごく素敵だなと思ったんです。ただそのノウハウといいますか、そういったものはこの全部のネットワークがいるんだと思います。卒業生に関わらず、学生さんの適正であるとか、興味であるとかそういうものを含めてですね。ここに学生さんと呼んで喋ってもらったらどうですか。私たちが持っている視点をひよっとしたら持っているかもしれないということをおもいました。

**【萩原議長】**

実際に学生の中にはひとつだけではなくていくつかに関わっている学生もいますよね。サークルなどで。例えば、学校支援地域本部でもやっているしサタスタでもやっているような。そういう子にとって、学校がどのように映っているのか聞いてみたい気がします。

**【古川委員】**

制度的に無理なんですか。傍聴席に入ってもらおうとか。

**【萩原議長】**

それは特別委員のような形で入ってもらうのは全然大丈夫だと思います。

**【木下委員】**

傍聴席に入ると意見が言えないので。

**【萩原議長】**

そうですね。

**【木下委員】**

教員を目指している学生にとって、座学ではなくそういった活動は、最初はもちろんとまどいであるとか上手くいかなかったとかあると思いますので、1回1回のアンケートやヒアリングをなさっても、そこでは成果は測れないと思うんです。

学生にとっては、現場でボランティアをしたということは、教員採用の時の自己PRにすごくなるんです。ですから、ある意味では、支援に入らせていただく学校や地域と学生の関係はウィンウィンだと、私は感じているんですけどもいかがでしょうか。

**【萩原議長】**

そうですね。本学では大阪市や東大阪市から学校支援ボランティアの募集がどっと来るんですけども、学生はやはり選びますよね。例えば、行き帰りが定期券の範囲内で交通費がかからないであるとか、1回3,000円のボランティア謝金があればそちらの方がいいといったように。やはり、学生は学生なりに、それが自分の経歴としてどう生きていくのかということを考えながら選んでいくんでしょうけれども。

門真に行っている本校の学生はそれほど多くなくて限られているんですけども、実際に行っている学生何人かに話を聞いたことがありまして、すごくおもしろいと。授業サポートの場合は決められた授業の中でそういった授業をしなければならないので、教員を目指している学生にとってはいい学びになると思うんですけども、サスタやまなび舎 Kids などの場合は、自分たちで何かやらないといけないですし、いろいろなタイプの子どもがいて自由にある程度できるので、非常にそれが勉強になると何人か言っていました。考えていかなければならないので、何も考えないで授業に行き、先生の言われたとおりにサポートするのではなくて、行く度に子どもに何をどう教えればいいのかであるとか、聞かれたことが分からなかったの、次はどう言おうなど考えたりするのがすごくいいと言っていました。

**【木下委員】**

教育実習よりよっぽど勉強になるみたいですけどね。

**【萩原議長】**

そのあたりの力をもっと活かしていくということは必要でしょうね。サスタやまなび舎 Kids はもうこれで何年くらいになるんですか。

**【事務局】**

まなび舎 Kids が平成20年度からサスタが平成21年度からとなっております。

【萩原議長】

9年くらいですか。

【事務局】

そうですね。

【萩原議長】

そうしましたら、当然はじめころの子どもたちは大学生になっていたりするんですね。サタスタやまなび舎 Kids の中で OB というのは把握できるんですか。

【事務局】

現状では難しいです。

【木下委員】

あえて緩やかにしておられるということかもしれないですけども。

【萩原議長】

そうですね。個人情報のお考えがあって、こちら側のリストを別のところで使用するということは難しいでしょうし。

【木下委員】

そうですね。本人の了解を最初にとる必要がありますが、参加するときにそこまでガチガチにしてしまうと、参加するハードルが高くなってしまいますし。

【萩原議長】

どのようにするのがいいのでしょうか。何か繋がりをつくっていくのがおもしろいように思います。

例えば、まなび舎 Kids に来たら手帳みたいなものがあるって、何日に来たのというのが残っていて、それを学校の先生が見て分かったり、その手帳を中学生になったときのまなび舎 Youth にも引き続き使えるようにして、継続して来ている子どもだと分かるようにしたりであるとか、本人がそういう記録を持って行くということであればできるかもしれないですね。

あるいは、ある年度の子どもたちの中から、追跡的に協力してくれる子を見つけて、中学校へ行ったときにどのような勉強をしたのか教えてもらうなど、ちょっとずつ繋がりをつくっていくとか、この事業で来ている子と、この事業に来ている子を繋いでいければ次のものが見えてくるかなと思います。

生涯学習では、生涯学習手帳などをやっている地域があります。どこかの講座に参加するとスタ

ンプがもらえて、1年間で12講座行っていれば表彰があってそれをもって来年また頑張れたり、何年かするとそれでボランティアをやる資格が出てくるといったことがあります。子どもたちも、やったことがプラスになって評価されていくということをつくっていけば、積極的にそれを使っていくかもしれないですけども。

今、困難を抱える子どもたちへの支援ということで説明いただきましたけれども、このあたりいかがでしょうか。図書館の方では特に視覚障がいの子供たち向けに様々なことをされているということで、あとはこれといって力を入れてされていることはないようですけども、やはり学生とのボランティアのところで、学校支援地域本部でいろんなサポートをされていたりというのが一番大きいのかなと思います。

続けて最後の説明もしていただいて、もう一度全体へ戻るということでよろしいでしょうか。それでは「効率的、効果的な社会教育行政の推進」について引き続き事務局よりお願いいたします。

#### 【事務局】

それでは最後に「効率的、効果的な社会教育行政の推進」の中の、教職員が元気なるような取り組みについて、学校支援地域本部で実施している事業の中からご報告させていただきます。

学校支援地域本部は、学校の教育活動を支援するため、地域につくられた学校の応援団です。子どもが学ぶためのよりよい環境づくりとして、花壇の整備、図書の整理、図書室開放等を行っております。また校区によっては大学のボランティアサークルと協働で子ども向けに防犯講習等も実施しております。これにより、地域の大人や大学生が多く関わることで、多様な体験、経験の機会が増え、コミュニケーション能力の向上などの効果が期待され、かつ、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図ることができます。さらに、教員と地域の関係性も構築され、教員が地域で活躍、元気になる取り組みに繋がるものと考えております。

社会教育課と学校教育課が部としてひとつになったことから、一層連携を深め、子どもたちだけでなく、学校現場で働く教員が元気になる取り組み、仕組みづくりに努めて参ります。

#### 【萩原議長】

ありがとうございました。これは提言の7ページ目の部分になるんですが、特に「教職員が地域でも活躍し元気になるような」のところにつきましては、提言の時でも活発に議論していただいたところで、こういうことを門真市でもしっかり取り組む必要があるだろうということで、書いた部分ですね。そのために、先ほどから何回も出ておりますけれども、学校支援地域本部の中で、環境整備などに地域やボランティアの力を借りながら取り組んでいるということで、それらを通して少しでも教職員の負担を減らしつつ、よりよい学習環境を整備するというようになっております。

関西外国語大学のボランティアサークルと連携した事業というのは、実際にどのようなことをやられているんですか。

## 【事務局】

関西外国語大学のボランティアサークルの、学習支援のグループにご協力いただいております、具体的なものとしましては、学校支援コーディネーターがコーディネートして、サタスタの中で防犯講習の実施であるとか、みらい小学校ではダンボールハウス作りなどをボランティアサークルと連携して実施しております。

## 【萩原議長】

ということで、資料4の説明は終わりましたので、戻っていただいても関連のあるところでも結構ですので、ご意見、ご質問をお願いいたします。

## 【白土委員】

資料3の4ページのところなんですけれども、第五中学校地域会議の取り組みが書いてあるんですね。門真市で2つだけということで、全体に広がっていないというのは五中の関係をやっている者としては、非常に残念なんです。五中校区でいえば、北巢本小学校、四宮小学校、東小学校、それから五中、今まで考えられなかったような広がり度で取り組みが進められております。資料にありますエコキャンドルナイトは昨年実施したものになります。今年は、9月23日にあるんですが、規模がすごく大きくなります。紙袋に絵を描いて、中にキャンドルを入れるというものがあるんですけれども、去年は100個でした。今年は600個あるんです。風が吹いたら少し怖いと思うんですけれども、それも、学校の先生方から子どもたちへの働きかけで、協力していただいているんです。私たちからすれば、100個くらいで良いのではないかと思うんですけれども、学校さんがたくさんの子どもたちに呼びかけてくださいました。回収するまではどれくらい集まるかは分からないんですけれども、関わる子どもたちが数倍増える取り組みとなりました。

五中学校区というのは北は守口市や寝屋川市から南は大東という細長い地域です。私はこの地域でキッズサポーターと地域会議に関わり、主に通学路の安全という課題に取り組んできました。同じ地点で10年間立っていると、様々気づくことがあります。それも3小学校区ともなると、三者三様、異なる状況、異なる課題が見えてきます。現在、地域の人たちや関係校の協力を得て、危険箇所注意喚起を訴える二種類の看板を自主作成し、設置する取り組みをしています。

はじめにお話があった、取り組みの継続ということですが、そしたら次に誰が続けてするのかということです。退職した者が多く集まっておりますから、それで動くのは大変だということです。お話にもあったように、学生さん達のネットワークが大事かと思えます。私は、地元の門真に勤め、退職した教職員のネットワークはそれ以上かなと。やはり門真の子どもたちに関わった以上、少し恩返しをするというのはいかがでしょうかと思うんです。門真に住んで、門真の子どもたちを見てきて、門真の事情を少しでも見てきた者、そこが動き出すことのメリットは、大きなものがあるのではないかと思います。

先ほどから話に出ているサタスタにも一度行ったんですけれども、お兄ちゃん、お姉ちゃんのところ子どもたちが行くんです。やはり授業とは違うんだなと。サタスタの値打ちはそこだなと思

いました。学力云々は置いといて、場づくりのようなところが大事かなと。特に継続して関わる人を確保することのしんどさ、これは何とかしないといけません。そのことが上手くいくと、ニーズも増えていくのではないかと思います。

**【萩原議長】**

ありがとうございました。いかがでしょうか。他、どの点についてでも結構です。

**【白土委員】**

総合体育館ができましたけれども、お昼の時間などはやはり利用しにくいと思うんですけれども、利用の推移のようなものが分かるようであれば教えてください。あんなに立派なものが出て、こんなにも利用の価値があるんだということも。小学生や中学生がどのような利用をしているかは分かりませんが、市民の方が体育館ができて良かった。目の前のコナミがあるけれども、こちらもできて良かったということになれば、つくった値打ちがないのではと思いますので。だんだん利用が多くなってきたのか、今の時点でかまいませんのでお願いいたします。

**【萩原議長】**

では、ついでに資料5「門真市立総合体育館オープニング記念イベント報告」のお話しもこの後にあるので、オープニング後どうなったかということも含めてお願いいたします。

**【事務局】**

市立総合体育館が平成29年5月1日に供用が開始されましたのでご報告いたします。

資料5「門真市立総合体育館オープニング記念イベント報告」をご覧ください。

オープンに際しましては、オープン前日の4月30日にスポーツ関係団体等で結成されました門真市立総合体育館オープニング記念事業実行委員会及び教育委員会の主催により、オープニング記念事業を実施しました。

当日は、サブアリーナにおいて、記念式典の実施を皮切りに、体育館内の各施設において、実行委員会参画団体等によるスポーツ教室や体験会などを実施し、メインイベントとして、シドニーオリンピックテコンドー銅メダリスト岡本依子さんや、北京オリンピック体操団体銀メダリスト沖口誠さんらを招いて、「スポーツシンポジウム門真2017」を開催し、スポーツを通して子どもたちに夢を持ってもらうことなどについて、お話しいただきました。

当日の参加者数は、約3,000人とたくさんの市民の方とともに、総合体育館のオープン祝う事業となりました。

なお、総合体育館の管理運営につきましては、民間の能力を活用し、住民サービスを向上できるよう、指定管理者として、コナミスポーツクラブ株式会社及び近鉄ビルサービス株式会社が実施しております。

以上簡単ではございますが、総合体育館供用開始について報告させていただきます。

**【萩原議長】**

では、引き続き利用状況もお願いいたします。

**【事務局】**

先ほどおっしゃられておりました、利用の推移についてですが、今5月から7月までの数字を持っているんですけども、まず一番大きなメインアリーナにつきましては、5月が60件2141人、6月が52件1,088人、7月が72件2044人です。これは団体利用の数のみになっております。また、団体利用ですので、大会等がありますと人数が増えてきます。5月についてはスポーツレクリエーション大会がありましたので一時的に数が増えているということと、6月から7月にかけては利用者が増えたということになっております。次にサブアリーナにつきましては、5月が70件1,149人、6月が76件1,153人、7月が92件1,063人となっております。次に剣道場につきましては、5月が18件180人、6月が21件295人、7月が46件470人となっております。次に柔道場につきましては、5月が29件419人、6月が27件508人、7月が31件364人となっております。次に1階多目的スタジオについては、5月が62件472人、6月が54件401人、7月が82件886人となっております。

続きまして、個人利用について、団体利用の予約が当日入っていなければ個人で利用できるとなっておりますので、利用人数をご報告させていただきます。個人利用しかできないところからご報告いたします。まずトレーニングルームにつきましては、5月が1210人、6月が1554人、7月1573人となっております。次にランニングコースにつきましては、5月が108人、6月が177人、7月177人となっております。次に幼児体育室につきましては、5月が285人、6月が401人、7月が540人、これは子どもと保護者を合せての数でございます。続きまして、先ほど団体利用でご報告させていただきました場所の個人利用者数についてご報告いたします。メインアリーナにつきましては、5月が22人、6月が173人、7月が294人となっております。次にサブアリーナにつきましては、5月が192人、6月138人、7月が126人となっております。次に多目的スタジオにつきましては、5月が6人、6月が44人、7月が15人となっております。次に柔道場につきましては、5月が5人、6月が45人、7月が2人となっております。最後に剣道場につきましては、5月が8人、6月が19人、7月が10人となっております。人数につきましては以上でございます。

**【萩原議長】**

こういった体育館などは、やはり夏休みには利用が増えますよね。

**【事務局】**

そうですね。まだ夏休みの数字は出ていないんですけども、8月中は日に1回くらい体育館の様子を見に行っている中で、中学生や小学生が個人利用で、居場所として利用しているのをよく見

かけます。

**【萩原議長】**

今後の推移を見守らないといけないですね。資料の方は全部ご説明いただいて、他にご意見等なければまとめさせていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

今日こういった形で進捗を議論いただくということで事務局とも資料など試行錯誤させていただいたんですけども、全体を踏まえた数値中心の資料ということになっておりますが、みなさんのお話しをお伺いすると、やはり事例ですね。

特にサタスタやまなび舎Kids、学校支援地域本部、読み聞かせあるいは読書推進の3つが焦点になっているかと思うので、ぜひ次回の会議で可能であればですが、地域の方にも参加いただいて、どういう課題を持っているのか、どういったところをもっと支援してほしいのかなどの生の声をお聞かせいただいて、我々としても議論した方が実りは良いのではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

どういう形で参加できるかは考えなければいけないですけど、特別委員のような形で1回だけ指名させていただくのか、ヒアリングの対象者としてご参加いただくのかは事務局と検討させていただいて、できれば何人かの代表の方にお越しいたきて、課題や今後どうしているのかを直接お聞きして、社会教育委員会としてどういったことができるのかということを考えていくということはいかがでしょうか。

**【木下委員】**

ぜひ。

**【萩原議長】**

もし、こういったところをお話し聞きたいということで、ご意見があれば事務局へ近日中にお寄せいただければ、それも含めて対象を考えさせていただこうかと思います。どこに来ていただくのか、どういう方法かについては事務局と私に一任させていただければと諮りますので。次回はできればそういった形で直接お声を聞かせていただくというところから、議論していくということにしたいと思えます。

**【船越副議長】**

よろしいでしょうか。

**【船越副議長】**

今日話題にでておりました、学生の活用についてですが、おそらく本校がここから一番近い学校で、いくつかの事業にも微力ながらお手伝いをさせていただいているんですけども、まだまだそういった機会を提供していただければご協力できる部分もあるかとは思いますが、

先ほど、関西外国語大学さんが具体的にどのような活動に携わっておられるかというお話しをい

ただいたんですけれども、例えばこの事業ではこの学校が、人数までは難しいかもしれませんが、こういう関わりをしているということはオープンにできるものなのではないでしょうか。

**【事務局】**

どの学校の学生が関わっていただいているのかということは、お答えできるかと思います。

**【船越副議長】**

どういう事業で関わっているのかということもでしょうか。

**【事務局】**

はい。おおまかにはお答えできると思います。

**【船越副議長】**

本校でも地域ボランティアを専門に活動するサークル等も力を入れてやっておりますので、もっともってお役に立てるのならば、いろんな形でサポートしていきたいと思いますので。ただその反面、平日の昼間というのは学生たちも忙しくて、授業の出席なども厳しくしなければならない事情がありまして、土日の活動についてはけっこう出ていたりはするんですけれども。その中でも、具体的にこういう活動があって、他の学校でもこういう取り組みをされているということになれば、当然自分たちもやろうという形も出てくるかと思うので、そういった情報をオープンにしていれば、まだまだお力になれる部分も出てくるかと思うのでご検討いただければと思います。

**【萩原議長】**

ボランティアの学生もどなたか来てくれたらいいでしょうね。なかなか難しいかもしれませんが、当日の参加は難しくても、できれば声を拾う形で、学生がどういうことを考えているのかだけでも分かれば助かるんですけれども。そのあたりも焦点をあてて議論していきたいと思います。

他にご意見やご質問はございますか。

それではこれもちまして平成 29 年度第 1 回門真市社会教育委員会議を閉会します。